# 令和 7 年度　「データサイエンス・AI 教育プログラム」の自己点検結果について

**【学内からの視点】**

1. プログラムの履修・修得状況
   令和 7 年度に実施のプログラムの履修状況・単位修得状況は、自己点検・評価委員会が「履修者名簿」「単位修得状況表」により確認を行いました。

2. 学修成果
   プログラムの 4 科目を含め、毎学期の最終授業日に行っている「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づき、各授業担当教員が集計結果を踏まえた授業改善方策として「フィードバックシート」を FD・SD 推進委員会（委員長・学長）に提出しました。プログラム 4 科目の評価結果について秀、優、良、不可の成績分布状況もデータ化し、学習成果を把握しました。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
   プログラム 4 科目の「学生による授業評価アンケート」においては、授業理解度に係る質問には次の 3 つ含まれています。
   ①課題の量や難易度は、取り組むのに適切でしたか?
   ②教員は、学生の理解度を考慮して授業を進めましたか?
   ③教員から、授業を理解させようとする熱意や意欲が感じられましたか?
   プログラム 4 科目についての上記 3 項目の平均が 4.57 ポイントで全科目平均の 4.54 ポイントより高い結果が出ており、プログラムの理解度は高いといえます。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度
   令和 6 年度から開始した本プログラムは、他の全科目を含め学期毎に実施している「学生による授業評価アンケート」として、プログラム 4 科目のアンケート結果を学生用の学内専用 Web ページに 12 項目のポイントについて期間限定で公開しました。また、すべての科目について、講義系と演習・実習系に区分し、ポイントとレーダーチャートによるアンケート結果は、情報公開ページに掲載しています。なお、後輩等他の学生への推奨度については、令和 7 年度の授業評価アンケートにおいて「受講後の感想等」のコメント例で示すなどの対策をとりました。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
令和 6 年度と令和 7 年度の履修率の比較は以下のとおりです。プログラムの趣旨・目的を十分に周知し、履修規程でも履修方法欄に推奨科目として明記した効果もあり、選択 3 科目の平均履修率は向上しました。
・メディアリテラシーの履修率（大幅増）
令和 6 年度　85.1%　→　令和 7 年度　99.3%　（単位修得率　97.0%）
・情報基礎演習 A の履修率（微減）
令和 6 年度　98.0%　→　令和 7 年度　96.9%　（単位修得率　95.7%）
・情報基礎演習 B（必修）の履修率
令和 6 年度　100%　→　令和 7 年度　100%　（単位修得率　93.4%）
・コンピュータデザイン演習の履修率（微増）
令和 6 年度　92.2%　→　令和 7 年度　94.8%（単位修得率　93.7%）
・選択 3 科目の平均履修率（増加）
令和 6 年度　93.8%　→　令和 7 年度　97.0%
（単位修得率：芸術学部　95.4%、建築学部　97%）

**【評価に係る学外からの視点】**

1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価
本学の「データサイエンス・AI 教育プログラム」は、令和 6 年度から開始したものでプログラム修了者が社会人となるのは令和 10 年度以降となります。現在は、アセスメント・ポリシー（学修成果・教育成果の評価方針）に基づき、「就職先アンケート」を行っていることから、令和 10 年度以降はアンケートに付随してこのプログラムへの意見収集を行い、講義内容等の改善に活用していくこととします。

2. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見
本学は、令和 7 年 1 月に自己点検・評価実施要項を改訂し、自己点検の基準項目の一つに「内部質保証の機能性」を掲げたところです。その中で「学外関係者の意見・要望の把握・分析、結果の活用」を定めており、今後「学外関係者連絡会」を設置する計画です。なお、この連絡会には民間企業や地方公共団体など本学の卒業生と関連するステークホルダーが参画する計画であることから、このプログラムについて意見聴取を行いプログラム改善に結び付けていくこととします。

**【評価に係るその他の取り組み】**

1. データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解への対策
プログラム科目「メディアリテラシー」の到達目標として「大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める」を最初に掲げていま

す。15 回の授業には、多様なメディアを通した情報へのアクセスの際にデータサイエンスの基礎知識や AI の活用をより正しく理解するための工夫をこれまで以上に行います。データサイエンス・AI の学びがもっと楽しいものとなるよう、どのようなメディアのゲストスピーカーを望むのかなど、学生による授業評価アンケート以外に履修学生に問いかける試みを行っていきます。

2. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とするための対策
令和 7 年度、プログラムの推進組織である「教学委員会教務部会」とプログラム 4 科目の担当教員とにより、プログラム関係者ミーティングを開催しました。授業を振り返って、感想や意見、及び学生の反応について意見を交換しました。生成 AI 利活用の内容を充実させるなどプログラム構成科目の内容・水準の向上に繋げていくこととします。

（京都美術工芸大学教学委員会委員長）